

『富士山の裾野 田園未来都市 すその』の

挑戦



市では昨年10月、「市人口ビジョン」と「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。この2つの計画には、産官学金労言の代表の方々の意見が集約され、当市に関わるさまざまな皆さんの希望や期待が込められています。そこで今年の新春座談会のテーマは、総合戦略のキャッチフレーズそのものズバリ、「富士山の裾野 田園未来都市 すその」の挑戦。創生会議の3部会の代表に、総合戦略への熱い想いを語ってもらいました。

平成27年11月24日(火)
生涯学習センター

(敬称略・順不同)



塩崎 利和

広告デザイン事務所ハピネス アンド フリーダム代表。昨年1月に地域情報サイト「スソノタイムス」を開設し、市内の情報を発信し続けている。「広報すその」のリニューアルや市夏まつりのポスターなどのデザインを手掛ける。3人の子どものよき父親。戦略会議では、「まち」部会に所属。佐野若狭区在住。

勝又 久美恵

NPO法人メーブル理事。ファミリー・サポート・センターアドバイザーとして、子育て支援に奮闘。母親のチャレンジイベント「ママチャレ！」を運営。夫の転勤先での経験を仕事に活かす。戦略会議では、「ひと」部会に所属。三島市出身。二ツ屋二区在住。



永田平 正昭

パンとケーキの店YUZUKAのオーナーシェフ。関東地方やフランスで10年間修行。平成19年に開業。昨年、裾野青年会議所理事長を務め、第1回富士山一周国際駅伝を実現させる。裾野生まれの裾野育ち。御宿出身。現在は家族4人で長泉町に暮らす。戦略会議では、「しごと」部会に所属。

裾野市長 高村 謙二

子育て支援策や教育施策の充実に力を注ぐ。市の知名度や価値を高めるために、情報発信の強化に努める。3人の子どもの父。久根区で両親と妻、長男の5人暮らし。当市のイメージを「東京から100Km圏内の特別な田舎」と位置づける。市まち・ひと・しごと創生本部長と創生会議議長。市長就任3年目を迎える。



広告デザイン・パティシエ・ファミリーサポート、 それぞれの分野で裾野の魅力を創造する3人

市長 ▶ まずは自己紹介を兼ねて、皆さんの近況をお話ください。

塩崎 ▶ 佐野で広告デザイン事務所を営んでいる塩崎です。私は西中学校の出身です。インテリア関係の専門学校でデザインを学び、卒業後、さまざまな職業を経験しました。その後、県東部地区の広告代理店勤務を経て、9年前に独立しました。

市長 ▶ 着物が似合っています。まげもすてきですね。ずっと着物でいた方がいいのでは？

塩崎 ▶ 生まれた時代を間違えました（笑）。

市長 ▶ デザイン関係の仕事に就こうとしたのはどうしてですか。

塩崎 ▶ デザイナーの姉の影響が大きいと思います。

市長 ▶ 最近、塩崎さんが手掛けたポスターが増えてきました。夏まつりのポスターもそうでした。デザインする上で心掛けていることは？



塩崎 ▶ 常にお客様が求めるもの以上の成果を出そうと考えています。案を複数提示したうえで、お客様の希望に添える作品に仕上げています。

市長 ▶ 感心しました。2月6日に行われる第19回富士山国際雪合戦のポスターも、戦国時代にタイムスリップしたようで、ドキッとさせられました。

塩崎 ▶ 雪の中の戦いという雪合戦本来の価値を前面に押し出しました。

市長 ▶ 戦いのイメージを日本刀で表現したところに斬新さがあります。外国人に受けそうなデザインですね。続いて、永田平さん。

永田平 ▶ はい。私は御宿の出身です。富岡中学校の卒業生です。関東地方で10年間、ケーキとパンづくりの修行をしました。3カ月間ですが、フランスでも学んだ経験があります。おかげさまで平成17年に長泉町で開業することができました。最初は市内で物件を探していたのですが、調整区域が多く、なかなか希望するところが見つかりませんでした。そこで納米里駅

の横にしました。2年前、カフェタイプの2件目を町内にオープンさせました。

市長 ▶ 永田平さんは“すそのん”ケーキを考案しました。情報誌すそのスタイル第5号の表紙で紹介しています。販売する予定はないのですか？



永田平 ▶ “すそのん”は裾野市のキャラクターです。私のお店は長泉町なので、どうしたものでしょうか？長泉町のキャラクターと一緒に出す方法もあるかなと。

市長 ▶ “すそのん”ケーキの中に、あしたか牛を入れて出す方法もあります（笑）。永田平さんは絵が上手ですね。仲間の似顔絵を拝見したことがありますか、そっくりでした。

永田平 ▶ 昔から絵を描くことや細かい作業が好きでした。パティシエは天職だと信じています。

市長 ▶ “すそのん”ケーキの“すそのん”も、本当にそっくりです。

勝又 ▶ 本当ですね。食べるのがかわいそうなくらい。ぜひ販売して欲しいですね。

永田平 ▶ ありがとうございます。まだ、店頭販売はしていません。注文があれば、対応したいと思います。

勝又 ▶ お母さんやお子さんがきっと喜びますよ。

市長 ▶ 勝又さん、自己紹介をお願いします。着物姿がすてきですね。

勝又 ▶ 新春らしい着物にしました（笑）。あらためまして、NPO法人メープルの勝又です。私は三島市の生まれです。裾野に嫁いで最初に感じたのは、富士山が三島よりさらに大きく見えることです。富士山が裾野までくっきり見えることに感激しました。

市長 ▶ 裾野に長く住んでいると、大きな富士山に慣れてしまい、つい当たり前のように思ってしまう。転入してきた方々は、皆一様に富士山の雄大さに驚くようです。

勝又 ▶ 裾野に来てびっくりしたことがもう一つあります。市の無線放送で毎朝、行事予定が流れてきたことです。そのためでしょうか、地域に一体感があるように感じました。

市長 ▶ 裾野に来て、あるいは裾野から離れて初めて気

がつくことがたくさんあると思います。無線放送もその一つです。総合戦略の中で、「東京から100km圏内の特別な田舎」と定義したのは、まさにその点です。特別な田舎の価値を見出し、磨き、高めていくことが大切です。

勝又▶私は主人の仕事の都合で転勤生活を経験し、一人で子育てをする心細さを体験しました。そのときに、ファミリーサポート事業を利用することになり、その良さを実感しました。

市長▶外に出て、裾野にないものの良さを知り、裾野に輸入したのですね。

勝又▶はい。最初は、(株)ガーデンシティ裾野で、商店街の中で子育てママの居場所づくり、一時預かり事業を始めました。平成18年度に渡邊康一代表理事のもとでNPO法人メープルを立ち上げました。その後、市からファミリーサポート事業を受託し、子どもの一時預かりや親子向け教室なども行っています。おかげさまで会員数も400人になりました。(株)ガーデンシティ裾野時代の役員の皆さんにメープルの理事になってもらい、今でも運営面で支えてもらっています。

市長▶今ではなくてはならない事業です。

勝又▶無線放送の交通安全キャンペーンで、かつて預かった子どもの声が聞こえると、ああ、大きくなったなあと、うれしくなります。お子さんを受け入れている会員さんの中には、親御さんの転勤で裾野を離れた後も、「裾野のバァバ」と呼ばれ、家族ぐるみでお付き合いが続いている方もいるようです。メープルは、県の「ふじさんっこ応援隊」に登録しています。昨年、県が応援エピソードを募集した際、感謝の声が多集まった団体に贈られる「地域別貢献賞」を、県知事からいただくことができました。

市長▶素晴らしい！ 社会全体で子育てを助け合うことが大切であると思います。

勝又▶企業の転勤で裾野に来られた若いお母さんは、頼れる人も少なく、不安だらけだと思います。私も経

験したからよくわかります。実家の母親に頼れない環境にある場合、一人で悩みを抱え込んでしまうこととなります。そんなときこそ、メープルを活用していただきたいと思います。

33人の意見をワークショップで集約、 まち・ひと・しごと創生会議

市長▶創生会議に参加して、人口ビジョンや総合戦略の作成にご協力いただき、ありがとうございました。塩崎さんがまち部会、勝又さんがひと部会、永田平さんはしごと部会に所属していました。それぞれ、どんな雰囲気ワークショップが行われましたか。

塩崎▶私はまち部会に参加していました。多分、私が一番年少であったと思います。最初は、私でいいのかなと自問しました。

市長▶“私”だから良かったのです。面白い意見を述べてくれそうな方を選びました。

塩崎▶諸先輩に囲まれて教えていただくことばかりでした。市の現状について、今まで知らなかったことを知り、勉強する良い機会になりました。自分の仕事にもプラスになると思います。

市長▶どんな議論がなされたのでしょうか。

塩崎▶利用されていない農地があっても、農地法などの法律が厳しくて、勝手に開発できないことなどです。線引きの見直しが難しいのならば、行政効率を上げるために、コンパクトシティ化を進めるべきだという意見もありました。市街化区域の未利用地の開発を進めるために、宅地分譲補助事業を行うことはいい施策だと思います。

市長▶一定の成果が上がっています。人口ビジョンの目標にも年間20世帯以上の定住促進を盛り込みました。

塩崎▶転入者を増やすことも大切ですが、転出者を食い止めることも大切だという考え方もあります。

市長▶そうですね。いろいろな意見があります。一方で、旧来の5地区という枠組みもあります。また、企業が集積する北部地域では職住近接の考え方もあります。



数字で見る「市人口ビジョン」の目標

項目	目標年次	目標値
確保すべき人口	2060	5.2万人
高齢化率 ^{*1}	2060	28%
合計特殊出生率 ^{*2}	2020	2.07
希望モデル世帯の定住 ^{*3}	2016～	年20世帯

※1 65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合

※2 1人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを表す数値。15～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもの。合計特殊出生率がおよそ2.07のとき、人口は増加も減少もしない。

※3 両親と子ども2人の4人家族。平成25年度に宅地分譲補助事業の供給区画数25件を参考に算出。

塩崎▶既に新興住宅地の分譲も始まっています。

市長▶新興住宅地の場合、住民と一緒に高齢化を迎えてしまうという心配があります。将来、子ども世代が戻って来ればいいのですが、働く場所がなければ子どもたちは、帰って来たくてもできません。そのためには、働く場所の確保が必要です。まち・ひと・しごとの課題を見つめ直し、目指すべき将来像を示したのが、人口ビジョンであり、総合戦略であります。勝又さん、ひと部会に参加した感想はいかがでしたか。



勝又▶ひと部会は保育や教育関係の方々が多いためでしょうか、女性が多い部会でした。ワークショップも毎回にぎやかでした。熱心な“すそのファン”が多かったと思います。私は、メープルでの10年間の

体験を生かし、お母さんの声を伝えられればと思い、参加しました。

市長▶創生会議33人の委員のうち、3分の1は女性の方々です。子育て支援の最先端で活躍している方の意見は大変に貴重です。お母さんの技能経験を生かしたイベント「ママチャレ！」は大変好評ですね。

勝又▶市から運営を受託し、お母さんの眠っている力を生かした楽しいイベントになりました。得意なことを出し合いながら交流できる点が魅力です。7月と10月に行いました。この3月にもう1回開催します。

市長▶お隣の「ママラッチ」に負けないものにしてください(笑)。永田平さん、しごと部会はどうでしたか。

永田平▶しごと部会は、企業や団体、金融機関などの皆さんから構成されていました。私は長泉町民なのに選ばれてよかったのかなと思っていました。



市長▶永田平さんには、裾野青年会議所の理事長や若い企業人の代表としての意見を期待していました。

永田平▶皆さんと話していく中で、裾野は工業のまちなイメージが強くありますが、農業の可能性もあると感じました。自分の仕事とも関係が深いのですが、裾野の農産物を生かした商品開発に魅力があります。

市長▶六次産業化ですね。“すそのん”ケーキはその一例ですね。

永田平▶レアチーズの中に、裾野産のイチゴとモロヘイヤが入っています。裾野の農産物には面白いものがたくさんあると思います。農業にスポットを当てるべきだと考えます。

市長▶食を扱う方々から永田平さんと同じ意見をよく聞きます。当市は標高が78.5m～2,169mに及ぶため、多様な作物を栽培できます。

永田平▶食材が豊富な点は確かに魅力的なことです。

市長▶世界かんがい施設遺産の深良用水もある。富士山の良質で豊富な地下水もある。ブランド化につながる材料は揃っています。

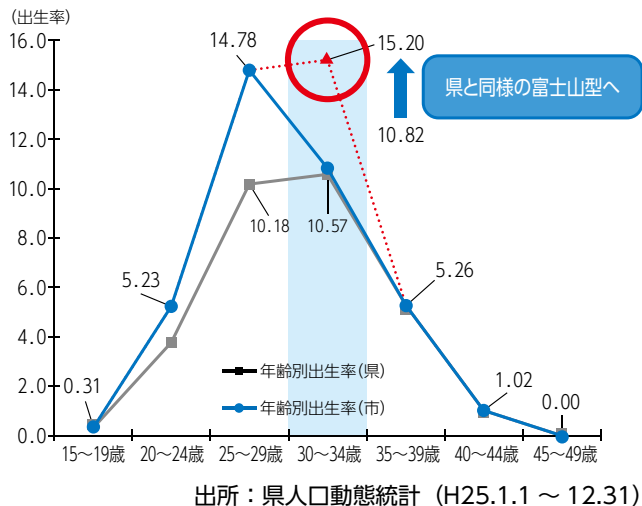
永田平▶起業する若者を、さまざまな方法で支援していくことが大切であると思います。私の場合は、いきなり銀行へ行ってもお金を貸してくれなかった訳です。今思えば当然のことですが、当時は何もわかりませんでした。思い切って商工会を訪ねたところ、事業計画書の書き方から教えてくださり、本当に感謝しています。

市長▶当市でも、f-Bizによる起業・販路拡大相談会を行ったり、さまざまな補助金をメニュー化したり、支援制度の拡充に努めています。

永田平▶どこでどうしたらいいか、若い人たちは知らないと思います。若者向けのPRが足りないと感じています。それらの制度を積極的にPRして、市内で若者が起業したくなる雰囲気をつくっていくことも大切です。

**子育て支援は社会全体で。
出生率向上のカギは、パパの育児参加**

裾野市、静岡県の実年齢別出生率 (平成 25 年)



市長▶市民アンケートの結果、子育て世帯が理想とする子どもの数は 2.55 人となっています。実際の合計特殊出生率は 1.82 です。もう 1 人欲しいと思っている夫婦は少なくないと思われます。県平均と比較した場合、当市の出生率は 20 代後半では、県平均より高いのですが、30 代前半で同じくらいになっています。子は授かりものともいいますが、この世代が産みたいと思えるようにしたいと考えています。

勝又▶子育てに対して、つらいというイメージを持ってしまうのはよくないことです。お母さんが一人で悩むのではなく、地域全体で支えていくことで、子育ての負担を分散させることが大切です。

市長▶ファミリーサポート事業で何か困っていることはありますか。

勝又▶お子さんが病気のときの受け入れです。今はお断りしているのですが、この課題が解決できれば、支援体制はさらにアップします。

塩崎▶私の場合、妻は野球チームができるくらい子どもを欲しがっているのですが、いろんな面で私が限界なので、3 人で充分です (笑)。

市長▶2 人目を産もうと思うかどうかの分かれ目は、父親の子育て支援によるという調査結果があります。パパの意識改革を進める必要があると感じています。

塩崎▶私は自営業なので、家にいることが多いです。いろんな子どもが遊びに来ていて、子どもと一緒にいる時間は多く、その点では恵まれていると思います。

勝又▶自宅でファミリーサポート事業を行っているようなものですね (笑)。

塩崎▶子どもを 1 人育て上げるのに、何千万円かかるとかという議論がありますが、経済的なことを心配していたら、なかなか子どもは授けられないと思います。

永田平▶私のところは、仕事が忙しく 0 歳から保育園に預けていました。日曜日は仕方なく、おんぶしながら仕事をしていました。妻に申し訳なく思っています。

塩崎▶子どもを増やそうといいながら、仕事が忙しいというのでは、なかなか出生率は上がらないと思います。世論を大きく変えていく必要があると思います。

市長▶その意味で、まずできることは、パパの意識改革を進めることだと考えています。3 月 17 日(木)に「みんなで子育てするまち」と題したシンポジウムを市民文化センターで開催します。講師に、イクメン・イクボス提唱者の安藤哲也さんと産婦人科医であり作家のそんみひよん 宋美玄さんを予定しています。

塩崎▶パパ向けのセミナーを開くのはいいことです。

市長▶この事業は、長泉町と連携して行います。永田平さんもご夫婦で参加を。



**総合戦略の推進に不可欠な3つの視点、
情報発信・市民協働・広域連携**

市長▶総合戦略を推進するために、情報発信、市民協働、広域連携の 3 つの視点が不可欠となります。永田平さんが言うように優れた施策があっても、活用する人がいなければ意味がありません。情報発信は本当に大切な視点であります。

塩崎▶市の情報発信も少しずつ増えてきていると思います。ただ、行政が気づかない情報や、行政では扱いにくいような情報もあります。そうした情報は、私たち民間の出番だと思います。

市長▶それは頼もしいことです。それぞれの得意分野を生かしながら、市民総ぐるみの協働作業で情報発信していく姿勢が大切です。

塩崎▶新聞を読むと各種団体の記事が少ないので、団体の情報発信を高める必要があります。情報発信の方法もさまざまです。先ほど、勝又さんが無線放送の話

をされましたが、年配の方々や小・中学生のご家庭では、よく聴いていると思います。若い世代は、フェイスブックやツイッターなどのSNSでしょう。市の公式フェイスブックも面白い情報が増えていると思います。

市長▶さまざまな媒体を通じて、タイムリーな情報を継続的に発信していくことが大切です。市内外で裾野ファンを拡大していくことにつながります。

塩崎▶私は今回、動画を使った情報発信を提案します。子どもたちは動画サイトのユーチューブをよく見えます。将来なりたい職業に、ユーチューバーというのがあるくらいです（笑）。画像よりも情報量が多いですし、何より音声を伴うため、裾野の魅力が伝わりやすいと思います。毎朝、市長自ら動画で発信してみたいかがでしょうか。

市長▶楽しそうですね、考えてみます。次に市民協働の視点ですが、市民の皆さんの側には、市民協働の意識が根付いてきたように感じています。その点、職員の意識改革はまだ道半ばです。どんな業務の中にも市民協働でできることが、必ずあると説き続けています。市民の皆さんのセンスを上手に取り入れていくことが、今後の行政の鍵になると考えています。勝又さん、市民協働の視点で、何か考えていることがありますか。

勝又▶はい、「ママチャレ！」を運営しているお母さんたちの向上心には目を見張るものがあります。本当に自主性にあふれています。お母さんたちのエネルギーは、協働の担い手に不可欠だと思います。

市長▶子育てや教育は、地域の協力があってはじめて機能します。まちづくりの起点は、ひとづくりにあります。総合戦略の中でも「共育」と表現しました。

勝又▶「ママチャレ！」ではお母さんが講師になって講座を開く企画があります。教えたり教えられたり、まさに「共育」であると思います。

市長▶人と人とのつながりこそが、まちの大きな財産であり、魅力であると思います。お母さんの輝く姿を子どもたちが見て、将来お母さんようになろうと思う。大変だから結婚したくない、子どもはいらぬというのでは、社会は継続しません。人のつながりがあってこそ、裾野に帰ってこようと思うのです。

勝又▶本当は年数回の「ママチャレ！」だけではなく、毎月交流できるような機会があればいいと思います。

市長▶「ママチャレ！」にはいろんな可能性があります。今後の活動に期待しています。広域連携といえば、永田平さんは裾野青年会議所の理事長として、第1回富士山一周国際駅伝を成功させました。

永田平▶歴代の先輩方の苦労があって、5年掛かりで実現させました。なかなかハードルが高かったために、競技ではなくファン・ラン駅伝という形になりました。課題はいろいろありますが、次の世代にタスキを渡すことができ、ホッとしています。



第1回富士山一周国際駅伝

市長▶このイベントの実現には、まさに広域連携が必要であったのでは？

永田平▶はい、7つの青年会議所と調整することになり、大変でした（笑）。私は、もう一つ、昨年4月に伊豆島田と桜堤を会場に開催したサクラサクマツリの運営に携わりました。広域イベントは民間だけでは難しい点もありますので、行政の支援を受けられればありがたいと感じています。

市長▶広域連携の調整は、確かに難しいところがあります。総合戦略は、隣のまちとの勝ち負けのために策定したものではありません。人口問題を広域的な視点から捉えることが、課題解決には不可欠です。広域連携の根底には東京一極集中に歯止めをかけるという狙いがあります。課題に対しては、近隣同士が力を合わせて取り組む必要があると思います。

総合戦略への期待、5年後の私の夢

市長▶総合戦略の計画年次は平成27年度～31年度となっています。作成に携わった一人として、最後に総合戦略に対する期待や要望をお話ください。

勝又▶まず、総合戦略の内容を市民の皆さんにしっかり説明する必要があると思います。同じ方向を向いて、目標を共有することが大切だと感じています。

永田平▶とにかく総合戦略のキモは情報発信だと思います。

塩崎▶創生会議のメンバーの一人として、目標を達成し、「挑戦」の文字が取れることを願っています。

市長▶最後に5年後の皆さんの夢をお聞かせください。

勝又▶はい、「ママチャレ!」を継続したいです。それから、転入希望者や転入したばかりの方々を対象に、子育て応援ツアーを開催したいですね。

永田平▶私の夢は、生まれ育った裾野で3号店を開業することです。富士山を見ながら、裾野の良さを知っていただけるようなお店です。

塩崎▶「裾野市をデザインする」という私の理念からぶれないような仕事をしていきたいです。特産品の紹介や、地域情報を発信できるアンテナショップを開くことも考えています。

市長▶ありがとうございます。皆さんのセンスの良さ

に、あらためて感激しました。私は、総合戦略のキャッチコピーを『富士山の裾野 田園未来都市 すその』の挑戦としました。あえて「挑戦」の2文字をいれたのは、設定した課題の実現が簡単ではないためです。人口ビジョンの目標として、2060年に人口5万2千人を確保することや高齢化率28%台を確保すること。そのための取り組みとして合計特殊出生率2.07へ引き上げることや、年間20世帯の親子4人世帯を定住させることなど、いずれも難題です。これらの目標を達成させるため、民と官が一体となって、オール裾野で挑戦していく決意であります。皆さん今後とも、ご協力をお願いします。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。



「富士山の裾野 田園未来都市 すその」の挑戦

年頭あいさつ

裾野市長
高村 謙二

明けましておめでとうございます。

輝かしい希望に満ちた新春を健やかに迎えのことで、心からお慶び申し上げます。

昨年、裾野市におきましては、皆様のご支援、ご協力のもと「すその発、ママチャレ!」を創設するとともに、優良な認可外保育施設を支援する市独自の「認証保育所制度」を設け、その第1号となる保育施設を認証いたしました。また、市内企業4社との間で「大規模震災時における支援協力に関する協定」を締結いたしました。今後も引続き、市民、地域、企業等との連携、協働による少子化対策、子育て支援、災害に強いまちづくりを推進してまいります。

平成26年12月に国から「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」が示されたとおり、近年、我が国は、政治、経済、人口、情報等の東京一極集中に対し、地方の創生と人口減少の克服という構造的課題に直面しております。

富士山の裾野の豊富な水と緑あふれる東京100km圏内の田舎であるとともに、「世界遺産 富士山」「世

界かんがい施設遺産 深良用水」などの地域文化や、グローバル経済圏で活躍する企業を含め産業集積の進んだ当市は、地方創生の担い手にふさわしい魅力があります。

今後も未来志向で個性あるまちづくりを進めるため、昨年10月、「裾野市人口ビジョン」「裾野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。人口ビジョンで掲げる2060年の人口5万2千人、高齢化率28%台に向けた合計特殊出生率2.07、希望モデル世帯の年間20世帯の定住促進は、容易に達成できる目標ではありませんが、結婚・子育ての希望を実現する少子化対策、社会増の流れをつくる定住促進により持続可能な地域経済の構築を目指し、「住みたいまち裾野」のまちづくり「共生」、すべての起点となるひとづくり「共育」、まちやひとを豊かにする産業づくり「共栄」を施策の柱とする総合戦略を展開してまいります。

この富士山の裾野の地で、東京に負けないよう、地方創生の風をしっかりと受け止め、地域にあるものを探し、磨きをかけ、裾野市発の元気を創り出して行くために、企業を含めた市民の皆さんと「オール裾野市」として挑戦してまいりたいと考えています。

結びに、今年一年の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。